

提携米通信

2010年9月号・黒瀬農舎発



異例の猛暑お見舞い申し上げます。

今年の8月の暑さは全国各地とも格別のようなでした。

その上9月に入ろうとしているのにまだ猛暑が続いています。皆さまお身体は大丈夫でしょうか。

毎年8月の末には、提携米の参加生産者の田圃を巡回して、無農薬の栽培計画が達成できたかなどのことや、有機栽培の方法や栽培上での問題点やその解決に向けての工夫など互いに確認や検討するための「現地確認会」を行っています。

今年も我が農舎関係生産者に加えて、提携米の事務局や共同購入団体の代表者を始め他の地域の生産者も参加して8月28日に行いました。

当地秋田ですと、この時期の恒例行事の田圃巡回は、長袖の上着やヤッケを羽織っていないと、調査対象の田圃に車から降り立つのがつらいほど寒い年もあります。

ところが、今年はまだお盆前の酷暑で、気温も30℃を超えています。

真夏の時期は、ほとんどの農家は早朝の4時過ぎから農作業を行い、朝の9時以降は夕方まで作業を中断しますが、例年なら8月も下旬に入ると日中に作業する人も増えてきますが、今年は暑くて田圃に人影はほとんどありませんでした。

ところで、春先に心配していた「冷夏」は吹っ飛んで、酷暑の夏になったお陰で、遅れていた稲の生育は7月から取り戻し、逆に、例年よりも10日余りも早く穂を出しました。

余りの暑さで、大豊作は期待できそうにありませんが、これから台風被害さえなければ平年作は間違いなさそうです。次は、美味しいお米に仕上がるために、夜温が低くなる日が一日も早く来ることを期待しているところです。

また、収穫時期も、例年よりも早く10月始めには新米に切り替えられそうです。どうぞご期待下さい。そして、お米の消費拡大によるご支援をお願いします。

提携米 黒瀬農舎

〒010-0445

秋田県南秋田郡大潟村西1丁目4の7

黒瀬 正・喜多

TEL 0185-45-3086 FAX 0185-45-2687



☆年々お米の消費量は減少しています。新米時期にはご進物や、お歳暮などにも、お米のご利用を宜しくお願い致します。

E-mail : akita@kurose.com <http://www.kurose.com>

最近の農業農政の話題

今年も有機稲作の現地確認会の後は、有機栽培の技術についての情報交換や最近の農業農政問題について意見交換を行いました。

その中で取り上げられたことを中心に最近の主な農業農政問題を紹介しておきます。

1、ロシアの干ばつ被害拡大による小麦の輸出禁止措置などの話題

今回のロシアの禁輸は、ロシアからの小麦輸入が少ない日本には、直接的に大きな影響はないと思われます。しかし、世界の穀物供給を担う各地に頻発する異常気象問題と、中国、インドなどの経済発展による穀物貿易量の増大で、中長期的な不安定性は年々加速していくと思われます。



2、自給率問題

日本の食糧自給率は平成18年度に39%に落ち込んで、その後41%まで回復したものの、先日の農水省が発表した平成21年度の実績は、また40%に落ちました。

この自給率は、カロリーベースと言われるもので、国民一人が一日に摂取する2436^{キロカロリー}の内、6割の1472^{キロカロリー}を外国に頼っていることを表しています。

昭和40年には自給率は73%でしたから、半分近くに減少したことになり、先進国の中で日本は世界最低です。この原因は、農産物の輸入が増えたからです。

しかし、輸入が増えた、そのまた原因は、日本に食糧がないのではなくて、日本人が主食のお米の消費を減らして、油や肉類を沢山食べるようになった食行動の変化に起因しており、国民一人一人の食選択が根本原因です。

昭和40年頃には、日本人は必要量の半分近くを、主食のご飯から摂取していたのですが、現在は20%余りです。主食を捨てた日本人は世界にまれな人種のようにです。

また、穀物の重量に換算した場合の「穀物自給率」は、昭和40年には80%でしたが、現在は27%まで落ち込み、これも先進国の中で世界最低となりました。

自給率を上げることは大切ですが、自給問題はこのようになかなか難しい問題です。

3、米の備蓄制度の改革問題

かつて主食の米は「食糧法」で国家管理されていましたが、「食糧法」の発足で原則自由な流通体制が整いました。この時から、常時100万トン程度を政府が市場から買い上げて備蓄して、数年後に再び市場に売り出すという「回転備蓄」によって米不足など緊急時への対応制度がとられて来ました。

しかし、この回転備蓄方式は、米市場を常に過剰供給状態に張り付けたり、逆に、豊作時の米価下落を抑えるために農協の政治圧力によって備蓄買い入れが実行されるなど、制度本来の目的から外れて運用されるなどの問題がありました。

特に、一旦買い上げ備蓄したお米を、再び市場に売り戻すことを繰り返すと、米価の万年安値を誘発するなど、市場本来の機能の阻害や混乱を生んできました。

そこで今、備蓄米は再び市場に出さない「棚上げ備蓄方式」に制度改革することが国で検討されています。新たな問題も生みますが、この改革は是非必要です。